

資源回復に寄与するニホンウナギの 効果的な放流手法の開発

(予算区分 [受託] 研究期間 2024～2026 年度)
担当：水産・海洋技術研究所 深層水科 鈴木進二
浜名湖分場 吉川昌之

【研究の背景とねらい】

- ニホンウナギ（以下、ウナギ）は、2014 年 6 月に国際自然保護連合が絶滅危惧種に指定するなど資源の減少が危惧されています。
- この対策としてウナギの放流が行われていますが、放流魚の生き残りや産卵への参加についてはほとんど判明していません。
- そのため本研究では、産卵回遊が期待できるウナギの養成手法の開発や、河川に放流したウナギの生き残りの調査を行い、ウナギの資源増殖の手法を検討することを目的とします。具体的には、次の各項目の調査・研究を行います。
- 天然の親ウナギに近い親ウナギを養成するための技術を開発します。そのためにまず、性的成熟における養殖ウナギと天然ウナギの差異を調べます。
- また、露地養殖池等を利用して、天然の親ウナギに近い親ウナギを養成することの可能性を調べます。
- さらに、河川における効果的なウナギの放流手法を検討するため、様々な発育段階や飼育履歴のウナギを養成して放流することで、放流後の生き残りを調べます。

【期待される効果】

- 産卵回遊する親ウナギを人工的に養成し放流することで、産卵に参加する親ウナギの数が増加して産卵数が増え、ウナギ資源が増加します。
- 効果的な河川放流手法によりウナギを放流することで、河川に生息するウナギの数が増え、その結果、成熟して河川を下り産卵に向かう親ウナギの数も増え、ウナギ資源が増加します。

【年次計画】

細目課題	2024 年度	2025 年度	2026 年度	研究内容
親ウナギ養成技術開発	○	○	○	性的成熟における養殖ウナギと天然ウナギの差異の把握
				露地養殖池を利用した親ウナギの養成
効果的な放流手法の開発	○	○	○	種々の発育段階や飼育履歴のウナギの放流後の生残の調査

(作成 2024 年 4 月)